

<藤山台中学校区・岩成台中学校区>
学校統合に向けた意見交換会 次第

日 時 令和8年5月30日(土)
午前10時から正午まで

場 所 東部市民センター 多目的室

- 1 開会
- 2 学校統合に向けた検討について説明・意見交換
- 3 参加者どうしによる意見交換
- 4 その他
- 5 閉会



市ホームページ

これまでに実施した、学校の適正規模等に関するアンケート結果及び意見交換会の会議録を掲載しています。

I 小中学校の適正規模等の取組について

日本の人口は平成 20 年をピークに減少局面に入り、合計特殊出生率は低い水準で推移しています。全国的に出生数が減少する中、本市においても同様に、子どもたちの数の減少が進んでいます。

本市の小学生の人数は、昭和 56 年度の 30,636 人をピークに、令和 13 年度には約 57% 減少の 13,312 人に、中学生の人数は、昭和 61 年度の 15,330 人をピークに、令和 19 年度には約 59% 減少の 6,221 人になると推計しています。

子どもたちの数の減少により、今後標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えています。

将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現していくために、本市では、学校の適正規模や適正配置について検討を進めています。

1 学校規模の区分

過小規模	全学年でクラス替えができない規模
小規模	クラス替えができない学年がある規模
やや小規模	(中学校のみの区分) 小規模だが、全学年でクラス替えができる規模

(1) 小学校における学校規模の区分

学級数	～ 6	7～11	12～24	25～30	31～
区 分	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模

(2) 中学校における学校規模の区分

学級数	～ 3	4～5	6～11	12～24	25～30	31～
区 分	過小規模	小規模	やや 小規模	適正規模	大規模	過大規模

2 学級数の基準

学級数については、現行の 1 学級あたりの児童生徒数の基準で推計しています。

学 年	人 数
小学 1 年生～中学 2 年生	35 人
中学 3 年生	40 人

※ 中学 3 年生は令和 9 年度以降について、1 学級あたり 35 人で推計しています。

3 学校規模によるメリット・デメリット

「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」P18、19、22からの抜粋

(1) 規模が小さい学校のメリット

- ① 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- ③ 様々な活動において、一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。
- ④ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。
- ⑤ 教材や教具などを一人ひとり行き渡らせやすい。
- ⑥ 異年齢の学習活動を組みやすい。体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
- ⑦ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に活かした教育活動が展開しやすい。
- ⑧ 児童生徒の家庭の状況や地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

(2) 規模が小さい学校のデメリット

ア 学級数が少ないことによる課題

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- ③ 教員の加配なしには、習熟度別指導など、クラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される。
- ⑤ 運動会や文化祭、遠足、修学旅行などの集団活動や行事の教育効果が下がる。
- ⑥ 上級生と下級生間のコミュニケーションが少なくなる。学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。
- ⑦ 体育科の球技や音楽科の合唱や合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ⑧ 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ⑨ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。
- ⑩ 教科などが得意な子どもの考えに、クラス全体が引っ張られがちとなる。
- ⑪ 生徒指導上の課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける。
- ⑫ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- ⑬ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

イ 教職員数が少なくなることによる課題

- ① 経験年数や専門性、男女比などのバランスの取れた教職員配置やそれらを活かした指導の充実が困難となる。
- ② 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある。
- ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる。多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- ④ ティーム・ティーチングやグループ別指導、習熟度別指導、専科指導などの多様な教育方法をとることが困難となる。
- ⑤ 教職員一人あたりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない。
- ⑥ 学年によって学級数や学級あたりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生じる。
- ⑦ 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会などに参加することが困難となる。
- ⑧ 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい(学年会や教科会などが成立しない)。
- ⑨ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある。
- ⑩ 免許外指導の教科が生まれる可能性がある。
- ⑪ クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる。

ウ 学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

- ① 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
- ② 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。
- ③ 協働的な学びの実現が困難となる。
- ④ 教員それぞれの専門性を活かした教育を受けられない可能性がある。
- ⑤ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。
- ⑥ 教員への依存心が強まる可能性がある。
- ⑦ 進学などの際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- ⑧ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。
- ⑨ 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。

(3) クラス替えが可能になることによるメリット

- ① 児童生徒同士の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる。
- ② 児童生徒を多様な意見に触れさせることができる。
- ③ 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる。
- ④ クラス替えを契機として、児童生徒が意欲を新たにすることができる。
- ⑤ 学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができる。
- ⑥ 学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導などの多様な指導形態をとることができる。
- ⑦ 指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細かな指導が可能となる。

4 本市の考え方

全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、1学年に2学級以上あることが必要であると考えます。

過小規模	過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討します。
小規模	
やや小規模 (中学校のみ)	その推移を見守ることとし、必要に応じて通学区域の変更などを検討します。

5 最優先に検討する中学校区

中学校区で見た場合に、将来、全ての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される中学校区（坂下・藤山台・高森台・石尾台・岩成台）にある学校について、最優先に検討することとし、取組を進めています。

- (1) 坂下中学校区
坂下中学校、坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校
- (2) 藤山台中学校区
藤山台中学校、藤山台小学校
- (3) 高森台中学校区
高森台中学校、高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校
- (4) 石尾台中学校区
石尾台中学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校
- (5) 岩成台中学校区
岩成台中学校、岩成台小学校、岩成台西小学校

6 藤山台・岩成台中学校区でのこれまでの取組

- (1) 令和7年2月
「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」の策定
- (2) 令和7年4月～5月
小中学校のPTA役員への説明、意見交換
- (3) 令和7年5月～6月
保護者、子どもアンケートの実施
- (4) 令和7年6月～7月
地域アンケートの実施
- (5) 令和7年9月～10月
第1回意見交換会の開催
- (6) 令和7年11月
第2回意見交換会の開催
- (7) 令和8年3月
第3回意見交換会（両中学校区合同）の開催

Ⅱ 児童生徒数推計について

(1) 藤山台中学校区

令和 22 年度では、藤山台中学校、藤山台小学校ともに、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であると推定されます。

ア 藤山台中学校 ※R15 から「小規模」、R16 から「過小規模」になると推定

学 年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R 10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	60	2	70	2	59	2	51	2
2 年	55	2	59	2	69	2	58	2
3 年	75	2	54	2	58	2	68	2
合 計	190	6	183	6	186	6	177	6

イ 藤山台小学校 ※R11 から「小規模」になり、R22 では「過小規模」であると推定

学 年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	42	2	42	2	42	2	39	2
2 年	58	2	41	2	41	2	41	2
3 年	43	2	57	2	40	2	40	2
4 年	50	2	42	2	56	2	39	2
5 年	55	2	49	2	41	2	55	2
6 年	69	2	54	2	48	2	40	2
合 計	317	12	285	12	268	12	254	12

※ R19 までは、R7 の 0 歳から 5 歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22 は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
43	2	56	2	42	2
50	2	42	2	55	2
57	2	49	2	41	2
150	6	147	6	138	6

R19 (過小)	
生徒数	学級数
27	1
28	1
27	1
82	3

R22 (過小)	
生徒数	学級数
23	1
21	1
29	1
73	3

R11 (小)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
35	1	35	1	31	1
38	2	34	1	34	1
40	2	37	2	33	1
39	2	39	2	36	2
38	2	38	2	38	2
54	2	37	2	37	2
244	11	220	10	209	9

R22 (過小)	
児童数	学級数
19	1
26	1
20	1
23	1
21	1
27	1
136	6

(2) 岩成台中学校区

令和22年度では、中学校区内の全ての小中学校が、全学年で学級数が1学級の「過小規模」とであると推定されます。

ア 岩成台中学校 ※R19まで「やや小規模」で推移、R22では「過小規模」と推定

学年	R7 (やや小)		R8 (やや小)		R9 (やや小)		R10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	80	3	91	3	89	3	89	3
2年	75	2	79	3	90	3	88	3
3年	80	2	74	2	78	3	89	3
合計	235	7	244	8	257	9	266	9

イ 岩成台小学校 ※R11から「過小規模」と推定

学年	R7 (小)		R8 (小)		R9 (小)		R10 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	27	1	30	1	31	1	30	1
2年	35	1	27	1	30	1	31	1
3年	38	2	35	1	27	1	30	1
4年	33	1	38	2	35	1	27	1
5年	38	2	33	1	38	2	35	1
6年	30	1	38	2	33	1	38	2
合計	201	8	201	8	194	7	191	7

ウ 岩成台西小学校 ※R12から「小規模」になり、R22では「過小規模」と推定

学年	R7 (適正)		R8 (適正)		R9 (適正)		R10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	50	2	42	2	42	2	37	2
2年	38	2	50	2	42	2	42	2
3年	51	2	38	2	50	2	42	2
4年	58	2	51	2	38	2	50	2
5年	46	2	59	2	51	2	38	2
6年	52	2	46	2	60	2	51	2
合計	295	12	286	12	283	12	260	12

【参考】岩成台小学校、岩成台西小学校の合計

学年	R7 (適正)		R8 (適正)		R9 (適正)		R10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	77	3	72	3	73	3	67	2
2年	73	3	77	3	72	3	73	3
3年	89	3	73	3	77	3	72	3
4年	91	3	89	3	73	3	77	3
5年	84	3	92	3	89	3	73	3
6年	82	3	84	3	93	3	89	3
合計	496	18	487	18	477	18	451	17

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
92	3	70	2	76	3
88	3	91	3	69	2
87	3	87	3	90	3
267	9	248	8	235	8

R19 (やや小)	
生徒数	学級数
37	2
54	2
57	2
148	6

R22 (過小)	
生徒数	学級数
31	1
29	1
31	1
91	3

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
29	1	26	1	17	1
30	1	29	1	26	1
31	1	30	1	29	1
30	1	31	1	30	1
27	1	30	1	31	1
35	1	27	1	30	1
182	6	173	6	163	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
11	1
14	1
15	1
13	1
15	1
12	1
80	6

R11 (適正)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
37	2	28	1	20	1
37	2	37	2	28	1
42	2	37	2	37	2
42	2	42	2	37	2
50	2	42	2	42	2
38	2	50	2	42	2
246	12	236	11	206	10

R22 (過小)	
児童数	学級数
20	1
15	1
21	1
23	1
19	1
21	1
119	6

R11 (適正)		R12 (適正)		R13 (適正)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
66	2	54	2	37	2
67	2	66	2	54	2
73	3	67	2	66	2
72	3	73	3	67	2
77	3	72	3	73	3
73	3	77	3	72	3
428	16	409	15	369	14

R22 (小)	
児童数	学級数
31	1
29	1
36	2
36	2
34	1
33	1
199	8

Ⅲ アンケート結果について

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】

児童アンケート …【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

1 藤山台中学校区

- ・ 小学校回答者数… 398 人（保護者 180 人、児童（3～6 年生）172 人、地域の方 46 人）
- ・ 中学校回答者数… 266 人（保護者 102 人、生徒 164 人）

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校の保護者で約 7 割、地域の方で約 9 割、中学校の保護者で約 8 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成

「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」 と回答した方 … 反対

① 小学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
藤山台小	【保護者】	66.6%	26.7%	6.7%
	【地域】	86.9%	13.1%	0%

② 中学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
藤山台中	【保護者】	77.5%	19.6%	2.9%

2 岩成台中学校区

- ・ 小学校回答者数・・・ 754 人（保護者 339 人、児童（3～6 年生）348 人、地域の方 67 人）
- ・ 中学校回答者数・・・ 335 人（保護者 152 人、生徒 183 人）

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約 6 割、地域の方で約 7 割、中学校の保護者で約 6 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成
 「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」 と回答した方 … 反対

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
全体	【保護者】	58.1%	32.4%	9.5%
	【地域】	71.6%	9.0%	19.4%
岩成台小	【保護者】	60.2%	28.8%	11.0%
	【地域】	73.5%	11.8%	14.7%
岩成台西小	【保護者】	56.3%	35.8%	7.9%
	【地域】	69.7%	6.1%	24.2%

② 中学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
岩成台中	【保護者】	61.8%	27.6%	10.6%

IV 意見交換会でのご質問・ご意見について

1 第1回意見交換会

保護者や地域の方にアンケート結果を報告するとともに、各中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、各小中学校で意見交換を行いました。

(1) 藤山台中学校区

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方や市の考え方についての質問が多くありました。また、魅力ある学校づくりや他市の事例についてなど、様々な質問がありました。

学校名 (開催日)	藤山台中学校 (9月22日)	藤山台小学校 (10月15日)
参加者数	6人	18人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関することについて (5) ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・アンケートについて (3) ・過大規模校への対応について (2) ・市の考え方について (1) ・学校選択制について (1) ・1学級の人数について (1) ・他市の事例について (1) ・避難所について (1) ・学校施設の改修について (1) ・地域の活動について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の考え方について (3) ・魅力ある学校づくりについて (3) ・授業の内容について (2) ・今後の具体的な検討の進め方について (2) ・1学級の人数について (1) ・その他の市の施策について (1) ・過小規模校の調査・検証について (1) ・先生の意見について (1) ・統合に関することについて (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・学校選択制について (1) ・アンケートについて (1) ・他市の事例について (1) ・通学について (1) ・PTA 役員との意見交換について (1)

(2) 岩成台中学校区

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方やスケジュール、学校の跡地についての質問が多くありました。また、魅力ある学校づくりや市からの情報発信についてなど、様々な質問がありました。

学校名 (開催日)	岩成台中学校 (9月26日)	岩成台小学校 (9月29日)
参加者数	6人	23人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートについて (3) ・統合に関することについて (2) ・学校跡地について (2) ・スケジュールについて (2) ・その他の市の施策について (2) ・児童生徒数推計について (1) ・意見交換会について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・地域クラブの運営について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・学校跡地について (2) ・情報発信について (2) ・魅力ある学校づくりについて (2) ・過去の藤山台小の統合について (2) ・統合に関することについて (1) ・児童生徒数推計について (1) ・学童について (1) ・通学について (1) ・学校施設の改修について (1) ・避難所について (1) ・その他の市の施策について (1)

学校名 (開催日)	岩成台西小学校 (10月3日)
参加者数	19人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関することについて (3) ・1学級の人数について (3) ・児童生徒数推計について (2) ・その他の市の施策について (2) ・通学バスについて (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・スケジュールについて (1) ・学校跡地について (1)

2 第2回意見交換会

第1回意見交換会の意見などを踏まえ、「藤山台中学校区と岩成台中学校区の学校統合に向けて検討を進める。」という市の考え方及び今後の進め方を示し、各中学校区全体で意見交換を行いました。

藤山台中学校区の意見交換会では、意見交換会についてや、不登校の子どもたちへの対応についての質問が多くありました。また、統合に関する市の考え方や小中一貫校について、他自治体の事例についてなど、様々な質問がありました。

岩成台中学校区の意見交換会では、統合に関する市の考え方についての質問が多くありました。また、通学バスや魅力ある学校づくりについて、他自治体の事例についてなど、様々な質問がありました。

中学校区 (開催日)	藤山台中学校区 (11月29日)	岩成台中学校区 (11月22日)
参加者数	11人	22人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会について (3) ・不登校の子どもたちへの対応について (3) ・統合に関する市の考え方について (2) ・小中一貫校について (2) ・他自治体の事例について (2) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・統合前の学校間の交流について (1) ・統合する場合の部活動について (1) ・通学バスについて (1) ・ニュータウン地区のまちづくりについて (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・統合の具体案を示すことについて (1) ・地域クラブ活動について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関する市の考え方について (5) ・通学バスについて (2) ・魅力ある学校づくりについて (2) ・他自治体の事例について (1) ・地域の活動について (1) ・小人数学級について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・通学区域の変更について (1) ・児童生徒数推計について (1) ・ニュータウン地区のまちづくりについて (1) ・教員の配置について (1) ・小中一貫校について (1) ・学童について (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・今後のスケジュールについて (1)

3 第3回意見交換会

第2回意見交換会で示した市の考え方を踏まえ、藤山台中学校区と岩成台中学校区の方にそれぞれの考えや思いを互いに知っていただくため、第3回意見交換会を両中学校区合同で開催しました。

(1) 意見交換

会の前半では、「中学校は、藤山台中学校と岩成台中学校の統合に向けて検討を進める。小学校は、藤山台小学校・岩成台小学校・岩成台西小学校の3校の統合に向けて検討を進める。」という市の考え方を示し、意見交換を行いました。

「小学校の体育館は避難場所になっているが避難場所はどうなるのか」という意見や、「地域の生活を考えると跡地のこともあわせて考える必要がある」といった意見がありました。

また、「アンケート結果や意見交換会の参加者数について、もっと多くの方から意見を聞いて検討する必要がある」という意見もありました。

中学校区 (開催日)	藤山台・岩成台中学校区合同 (3月1日)
参加者数	52人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none">・避難所について (2)・意見交換会について (2)・アンケートについて (1)・多くの方に意見を聞く方法について (1)・跡地について (1)・決定までのプロセスについて (1)・教育環境の整備について (1)

第3回意見交換会 質疑応答一覧

No.	質問	回答
1	市が丁寧に説明して進めてもらいたい大変ありがたいと思っている。基本的に統合には賛成している。私は岩成台小学校区の地区社協の活動をしていて、小学校の体育館が避難場所になっている。統合した場合に、その地区の避難場所はどうかになるのか。(岩成台小)	避難場所についてですが、現時点で体育館を残すかどうか決定していません。今後検討していく課題になると思います。地域の皆様が有事の際や災害があったときに避難場所に困らないように、市がしっかり対応していきたいと思っています。
2	今の回答では、体育館を残すのか残さないのか、わからない。(岩成台小)	体育館を残すのか、最終的な決定がされているわけではないのではっきりしたことは言えませんが、避難所という機能は必要なものですから、その機能については必ず保てるようにお約束したいと思います。
3	統合については基本的に賛成だが、資料のアンケート結果に地域の方の結果がでていて、どのように実施して集計しているのか。(藤山台小)	地域のアンケートにつきましては、市からの広報配布に合わせて、対象の中学校区の世帯の方にチラシを配布し、アンケートのご協力をお願いしました。その中で回答いただいた人数は、藤山台中学校区では46人、岩成台中学校区では67人です。
4	藤山台と岩成台の人口を考えた場合、データとしてはちょっと寂しいような気がする。これまで、開催された意見交換会に参加された人数はどれくらいか。(藤山台小)	藤山台中学校区は、第1回が中学校と小学校合わせて24人、第2回が11人の合計35人です。岩成台中学校区は、第1回が中学校と小学校合わせて48人、第2回が22人の合計70人です。
5	説明を聞くと、賛成の意見が多いようだが、結論は皆さんの意見を聞いて決定するのか。(藤山台小)	今、行っている意見交換会は、皆様の考えや思いを受けとめる場ということで開催しています。意見交換会後の次の段階として、市の考え方を基本方針としてまとめていきます。
6	保護者や地域の方などもっと多くの方の意見を聞いて、もう一度考えることも大事なことだと思う。皆の意見を集約する上で、意見交換会以外の方法はないのか。(藤山台小)	基本方針を取りまとめた後は、パブリックコメントを実施し、全市的に皆様のご意見を伺う機会を設けます。その後は、懇談会の場で地域の皆様や保護者の方たちと継続して話し合いを続けていきたいと思っています。今後も多くの方のご意見を伺いながら検討を進めていきます。

No.	質 問	回 答
7	<p>跡地の利用については別で考えるという説明だったが、小学校は避難場所も含め、防災イベントを開催するなど、地域として非常に重要な場所だと思う。跡地のことを切り離して、まずは統合という話をするのは不誠実だと思う。教育委員会で決められないのであれば、意見交換会に責任のある方を呼んで、地域全体で検討する必要があることを認識してもらいたい。子どもの数だけみれば、統合やむなしという雰囲気があるが、地域の生活を考えると跡地を検討する場をもっと設ける必要があると思う。(岩成台小)</p>	
8	<p>統合について、今は決定せず意見をまとめているところで、その後、市の基本方針を作成して、通学バスなどの具体的な考え方を示すとのことだった。通学について、我々が意見を言う機会があるのか。決定までのプロセスを教えてください。(岩成台小)</p>	<p>基本方針を策定した後は、保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成する懇談会の設置を考えています。その中で、市が統合に向けた複数の案を提案したいと思っています。また、学校の場所による通学範囲の案も出して議論していきたいと考えています。懇談会は何なたでも傍聴していただけますし、必要に応じて、保護者や地域の皆様にご参加いただく意見交換会も開催していこうと考えています。</p> <p>これらの意見交換を続け、統合に向けた基本計画を策定していきます。統合に向けた計画には、学校の場所やバスの範囲などを記載していくことを考えています。</p>
9	<p>私は小規模校の学校が、子どもの環境として良くないという考え方に疑問を感じている。全国には小規模校でも本当によい学校はいくつもあると思う。不登校の子に対応した学校に変えていくとか、今ある学校をどう守っていくのかということを考えるのが、本当に子どもを守っていくことになるのではないかと思う。通学バスの利用についても、私は歩いて通うのが基本だと思っている。子どもがバスに合わせた生活になることが本当に教育環境としてよいのかということは、もう一度考え直して欲しいと思う。(玉川小)</p>	

(2) 参加者どうしの意見交換

会の後半では、5人から7人で一つのグループになり、テーマごとに参加者どうしによる意見交換を行いました。意見交換は自由参加で行い、参加者数は38人（藤山台中学校区19人、岩成台小学校区8人、岩成台西小学校区8人、その他の小学校区3人）でした。

【テーマ1】統合する場合、新しい学校に望むこと

- ・学校の数がある程度少なくして、ハード面を充実する費用をまかなうことが必要である。
- ・体育館が大きい方がよい。そうすると部活動も活発になって、子どもが楽しく過ごせるのではないかと。
- ・施設面では、トイレは絶対にきれいな方がよい。
- ・越境通学や校区外通学を認めるように、駐車場のスペースを増やすなど整備してほしい。
- ・英語に特化する授業や手に職がつくような知識を学べるような魅力ある学校づくりが必要である。
- ・クラス替えができて多くの人に関われるような学校がよい。
- ・少人数の学校でも充実した教育を望むことができる。
- ・通いやすさ、歩いて通える安全な場所である学校がよい。
- ・自分たちで考えてつくりあげる教育が大事だということで、授業のカリキュラムを児童生徒同士で考えることができる学校がよい。
- ・障がいをもつ子どもも普通学級の子と一緒に学ぶことができる環境、インクルーシブ教育ができる学校がよい。
- ・いじめが増えているのでいじめが減る、無くなる、自殺がないように、風通しのよい学校にしていきたい。
- ・様々なことを学べるような環境にしてほしい。
- ・親や地域から見える学校づくりが必要。
- ・運動場が地域に開放されるような学校であれば、安心安全に子どもが遊ばせることができ、地域も関わるができると思う。
- ・地域に開かれた学校ということで、保護者と地域、学校が一緒になって、学校づくりをしていきたい、皆で一緒に学びたい。
- ・教育委員会は子どものことを第一に考えるということだが、地域の人にとっては、ニュータウンのまちづくりの一つとして考える必要がある。
- ・意見交換会に、ニュータウンのまちづくりのことを考えニュータウン創生課や跡地のことを考え産業部など、市の他の部署にも参加してもらってはどうか。

【テーマ2】統合する場合、心配なこと

- ・バスを利用することになった場合、どういった基準で利用できるのか、料金はどれくらいなのか、コースがどうなるのか、遅刻したらどうなるのかが心配。
- ・バスを利用することになった場合、部活動も地域クラブに移行する中で、運動する機会が減るので、体力面の成長が心配。
- ・バスや送迎の場所の確保をしてほしい。地区によっては校区の見直しも必要になるのではないか。
- ・通学バスの導入ではなく、通学路の防犯や安全の確保が一番大事なことなので、バス導入にお金や労力をかけるのであれば、ボランティアや地域の方に見守りをお願いして学校と一緒にやっていくことが大事。
- ・校区が広がれば、交友関係も広がるので、放課後、行動範囲が広がり、安全面が心配。
- ・持ち帰りの荷物、タブレットの使用などから、ランドセル自体も重いので、工夫が必要。
- ・跡地について、小学校は地域に根ざしているものであり、子どもたちがスポーツをする場、地域の方たちが集まる場でもあることから、跡地のことは積極的に検討を進めてほしい。
- ・学校が遠くなること、登下校の安全に不安がでてくること、通学の見守りの体制やどうやって安全を確保するのか。
- ・児童生徒数推計からニュータウン全体を見たときに、今回統合したとしてもまたその先に統合が必要になるのではないか、ニュータウン全体の将来を見た市の考え方が必要になるのではないか。
- ・統合した後の土地利用、子どもの家は統合しても同じような規模で利用することができるのか。
- ・体育館も地域の方が使うことができるのか。料金はどうなるのか。
- ・中学校を統合することになった場合、自転車通学も考えられると思うが、ニュータウン地区だと坂道などが危ないので、交通安全教育を強化してほしい。また、電動自転車購入の補助制度がほしい。
- ・人数が増えると個性がなくなってしまうと思う。

【テーマ3】統合する場合、新しい学校の場所の考え方

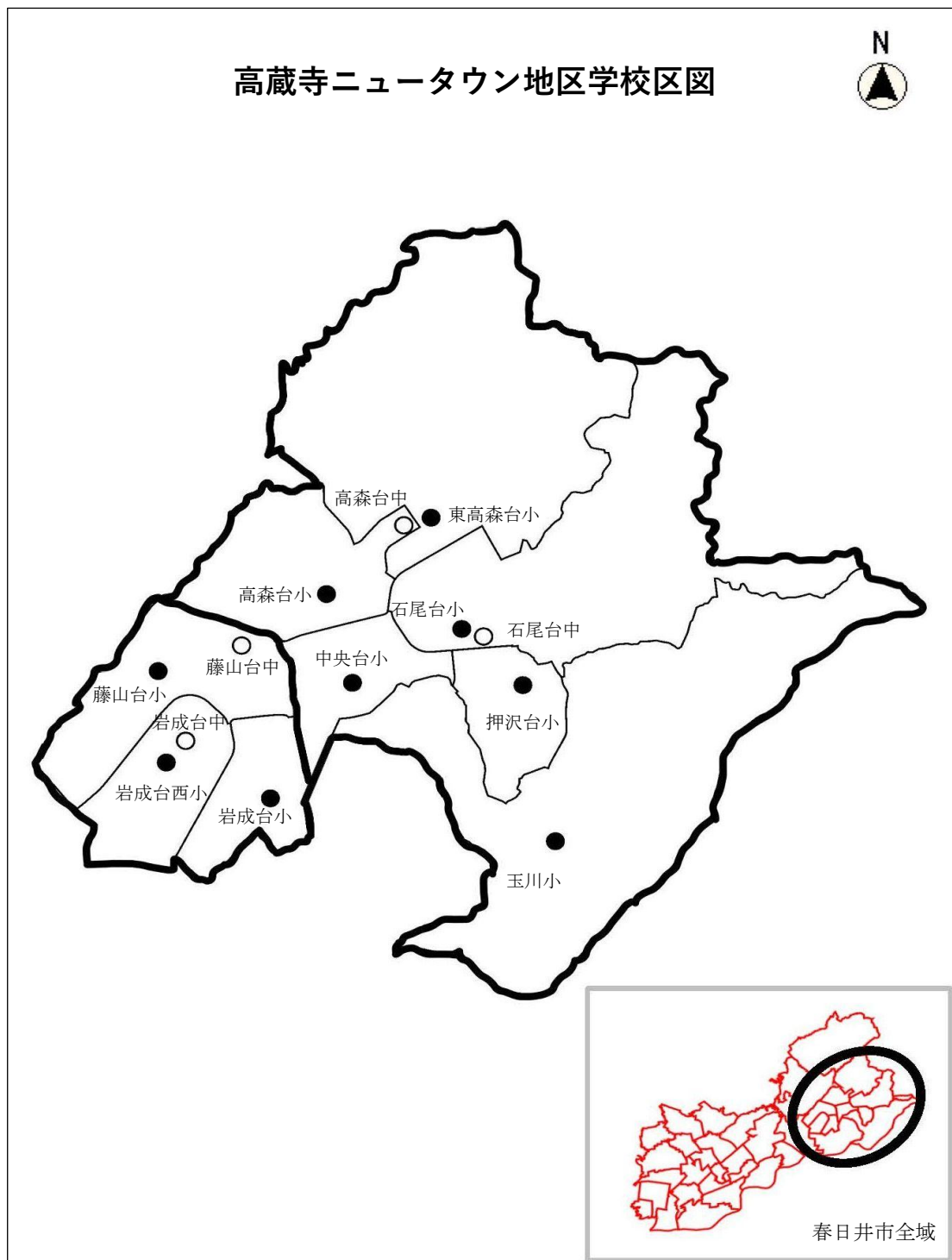
- ・岩成台西小学校と岩成台中学校の敷地で一つ大きな学校を立ち上げたらどうか。
- ・岩成台中学校、岩成台西小学校に小中一貫校ができればよい。
- ・施設が新しいので、小学校は藤山台小学校を使って、中学校は岩成台中学校を使うとよい。
- ・藤山台小学校は施設が新しいので、その活用方法を検討してほしい。
- ・小学校を1つではなく、2つにして、中学校だけ統合したらどうか。
- ・通学バスを導入する場合、バスが巡回しやすいところ、子どもたちの安全面を考えれば、大通りには面していないようなところが良い。
- ・行政コストがかからないようにしてほしい。
- ・現状、既にいびつな学校区になっているため、改めて校区の見直しを図って、一番近いところに通うことにすればよい。
- ・UR都市機構と協力して新しい場所を確保して、大きな敷地に小中一貫校をつくりたい。

※ 各意見交換会の会議録は、資料表紙のQRコードからご確認いただけます。

V 学校統合に向けた基本方針の策定について

本市は、平成 28 年に高蔵寺リ・ニュータウン計画を策定し、高蔵寺ニュータウンにおいて住民や関係団体と連携しながら、グルッポふじとう（高蔵寺まなびと交流センター）や西藤山台運動交流ひろば・ノキシタプレイスの整備を始め、地域住民等と連携した多様な移動手段の確保やニュータウン・プロモーションの推進などの様々なプロジェクトを進めてきました。また、当地区は地縁団体や市民団体が活発な活動を展開しており、地域主体のイベントが多く開催されるなど、地域のつながりが強い地区であると認識しています。

こうしたことから、学校統合に向けた基本方針については、高蔵寺ニュータウン地区全体で策定することとします。



VI 高蔵寺ニュータウン地区における基本方針（案）について

子どもたちにとって『より良い教育環境の実現』を図るため、これまでの取組を踏まえ、高蔵寺ニュータウン地区における学校統合に向けた方針を示します。

方針1

高蔵寺ニュータウン地区を2つの地区に分け、それぞれの地区で最適な学校統合のあり方を検討します。

(1) 藤山台中学校区と岩成台中学校区

【検討の対象校】

中学校：藤山台中学校、岩成台中学校

小学校：藤山台小学校、岩成台小学校、岩成台西小学校

(2) 高森台中学校区と石尾台中学校区

【検討の対象校】

中学校：高森台中学校、石尾台中学校

小学校：高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校、
玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校

- ① 次のような地域のつながりを踏まえ、ニュータウン地区を「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の2つの地区に分けることとします。
 - ア それぞれの中学校間の距離が最も近い組み合わせであること。
 - イ 藤山台ブロックと岩成台ブロックでは、PTA活動の一部を共同で実施していること。
 - ウ 民生委員・児童委員の活動では、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の2つの地区で民生委員児童委員協議会を開催し、情報共有が行われていること。
- ② 登下校については、必要に応じて、バスの利用などの通学手段を検討します。

方針2

新しい学校が魅力ある学校となるように検討を進めます。

- ① 小中一貫教育や特色あるカリキュラムの導入など、子どもたちにとって、また、地域にとって、魅力ある学校となるように検討します。
- ② 学校と地域との連携や協働の取組を取り入れ、地域ならではの創意工夫を活かした魅力ある学校づくりを検討します。
- ③ 地域の方が利用することができるコミュニティスペースの設置など、地域の拠点としての学校づくりを検討します。

方針3

保護者や地域の方、学校関係者と連携しながら、丁寧に検討を進めます。

- ① 保護者や地域の方、学校関係者の意向を尊重しながら、意見交換会などを通じてしっかりと議論を積み重ね、十分な理解や協力を得ながら検討を進めます。
- ② 保護者や地域の方に、検討状況や意見交換の内容などの情報を積極的に発信します。

【参考】

1 藤山台中学校区、岩成台中学校区の児童生徒数推計の合計

中学校の合計では、令和13年度まで「適正規模」で推移すると推定されますが、令和14年度には、小規模ですが全学年でクラス替えができる「やや小規模」になると推定されます。
小学校の合計では、令和22年度においても「適正規模」を維持すると推定されます。

(1) 藤山台中学校、岩成台中学校の合計 ※R14から「やや小規模」になると推定

学 年	R 7 (適正)		R 13 (適正)		R 19 (やや小)		R 22 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	140	4	118	4	64	2	54	2
2 年	130	4	124	4	82	3	50	2
3 年	155	4	131	4	84	3	60	2
合 計	425	12	373	12	230	8	164	6

(2) 藤山台小学校、岩成台小学校、岩成台西小学校の合計

学 年	R 7 (大)		R 13 (適正)		R 22 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	119	4	68	2	50	2
2 年	131	4	88	3	55	2
3 年	132	4	99	3	56	2
4 年	141	5	103	3	59	2
5 年	139	4	111	4	55	2
6 年	151	5	109	4	60	2
合 計	813	26	578	19	335	12

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

2 高森台中学校区、石尾台中学校区の児童生徒数推計の合計

中学校の合計では、令和 16 年度まで「適正規模」で推移すると推定されますが、令和 17 年度には、小規模ですが全学年でクラス替えができる「やや小規模」になると推定されます。

小学校の合計では、令和 22 年度においても「適正規模」を維持すると推定されます。

(1) 高森台中学校と石尾台中学校の合計 ※R17 から「やや小規模」になると推定

学 年	R 7 (適正)		R 13 (適正)		R 19 (やや小)		R 22 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	209	6	158	5	80	3	80	3
2 年	204	6	161	5	108	4	78	3
3 年	209	6	200	6	85	3	80	3
合 計	622	18	519	16	273	10	238	9

(2) 高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校の合計

学 年	R 7 (過大)		R 13 (適正)		R 22 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	155	5	92	3	73	3
2 年	155	5	132	4	71	3
3 年	195	6	97	3	89	3
4 年	176	6	141	5	81	3
5 年	184	6	140	4	72	3
6 年	173	5	144	5	67	2
合 計	1038	33	746	24	453	17

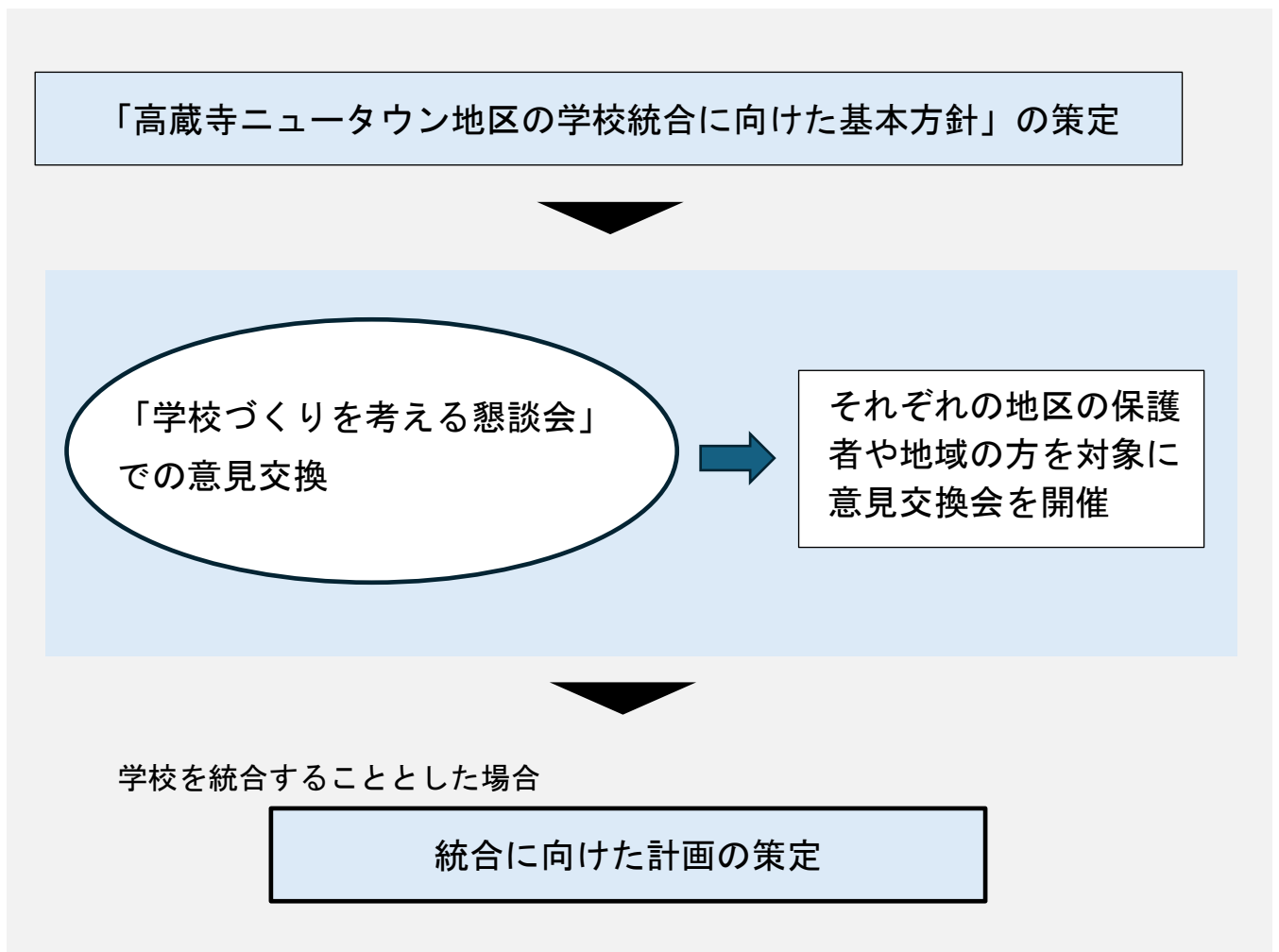
※ R19 までは、R7 の 0 歳から 5 歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22 は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

Ⅶ 今後の進め方

今後は、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の2つの地区において、それぞれの保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成する「学校づくりを考える懇談会」を組織し、統合の必要性を含め、より具体的な内容について意見交換を行います。また、懇談会での意見交換を踏まえ、それぞれの地区の保護者や地域の方を対象に意見交換会を開催します。

その後、学校を統合することとした場合は、統合に向けた計画を策定していきます。計画では、統合のための具体的な方策やスケジュールなどを示します。



なお、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」でそれぞれ検討を進めていく中で、進行状況に違いが生じた場合、統合に向けた計画をそれぞれの地区で策定することを検討します。

このページは製本の都合上、白紙のページとしています。

【参考】高蔵寺ニュータウン地区の他中学校区の状況

1 児童生徒数推計

(1) 高森台中学校区

ア 高森台中学校 ※R19まで「やや小規模」で推移、R22では「小規模」と推定

学年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	99	3	78	3	95	3	89	3
2年	92	3	98	3	77	3	94	3
3年	94	3	91	3	97	3	76	3
合計	285	9	267	9	269	9	259	9

イ 高森台小学校 ※R13まで「小規模」で推移、R22では「過小規模」と推定

学年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (小)		R10 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	34	1	32	1	32	1	36	2
2年	36	2	35	1	32	1	32	1
3年	41	2	37	2	36	2	32	1
4年	38	2	42	2	38	2	37	2
5年	39	2	39	2	43	2	39	2
6年	34	1	40	2	40	2	44	2
合計	222	10	225	10	221	10	220	10

ウ 中央台小学校 ※「過小規模」で推移

学年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	21	1	23	1	16	1	13	1
2年	27	1	21	1	23	1	16	1
3年	29	1	27	1	21	1	23	1
4年	22	1	29	1	27	1	21	1
5年	33	1	22	1	29	1	27	1
6年	21	1	33	1	22	1	29	1
合計	153	6	155	6	138	6	129	6

エ 東高森台小学校 ※「過小規模」で推移

学年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	18	1	16	1	21	1	17	1
2年	22	1	18	1	16	1	20	1
3年	21	1	21	1	18	1	16	1
4年	23	1	20	1	20	1	18	1
5年	20	1	22	1	20	1	20	1
6年	18	1	20	1	21	1	20	1
合計	122	6	117	6	116	6	111	6

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
94	3	86	3	74	3
88	3	93	3	85	3
93	3	87	3	92	3
275	9	266	9	251	9

R19 (やや小)	
生徒数	学級数
47	2
54	2
47	2
148	6

R22 (小)	
生徒数	学級数
38	2
35	1
36	2
109	5

R11 (小)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
27	1	40	2	32	1
37	2	27	1	41	2
32	1	38	2	27	1
32	1	32	1	39	2
38	2	32	1	32	1
40	2	39	2	32	1
206	9	208	9	203	8

R22 (過小)	
児童数	学級数
16	1
16	1
19	1
17	1
15	1
13	1
96	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
20	1	12	1	11	1
13	1	20	1	12	1
16	1	13	1	20	1
23	1	16	1	13	1
21	1	23	1	16	1
27	1	21	1	23	1
120	6	105	6	95	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
10	1
12	1
13	1
10	1
13	1
8	1
66	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
12	1	19	1	16	1
17	1	12	1	19	1
20	1	17	1	12	1
16	1	20	1	17	1
18	1	16	1	20	1
20	1	18	1	16	1
103	6	102	6	100	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
9	1
10	1
10	1
11	1
8	1
7	1
55	6

(2) 石尾台中学校区

ア 石尾台中学校 ※R18から「小規模」になり、R22では「やや小規模」と推定

学 年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	110	4	103	3	100	3	100	3
2 年	112	3	110	4	103	3	100	3
3 年	115	3	112	3	110	4	103	3
合 計	337	10	325	10	313	10	303	9

イ 玉川小学校 ※R 9から「過小規模」になると推定

学 年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (過小)		R10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	25	1	21	1	25	1	19	1
2 年	25	1	25	1	21	1	25	1
3 年	33	1	25	1	25	1	21	1
4 年	27	1	33	1	25	1	25	1
5 年	46	2	27	1	33	1	25	1
6 年	39	2	46	2	27	1	33	1
合 計	195	8	177	7	156	6	148	6

ウ 石尾台小学校 ※「過小規模」で推移

学 年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	21	1	22	1	14	1	23	1
2 年	24	1	21	1	22	1	14	1
3 年	33	1	24	1	21	1	22	1
4 年	31	1	33	1	24	1	21	1
5 年	21	1	31	1	33	1	24	1
6 年	29	1	21	1	31	1	33	1
合 計	159	6	152	6	145	6	137	6

エ 押沢台小学校 ※R13から「過小規模」になると推定

学 年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (小)		R10 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	36	2	25	1	29	1	27	1
2 年	21	1	37	2	26	1	30	1
3 年	38	2	22	1	38	2	27	1
4 年	35	1	39	2	23	1	39	2
5 年	25	1	36	2	40	2	24	1
6 年	32	1	26	1	37	2	41	2
合 計	187	8	185	9	193	9	188	8

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
108	4	76	3	84	3
100	3	108	4	76	3
100	3	100	3	108	4
308	10	284	10	268	10

R19 (小)	
生徒数	学級数
33	1
54	2
38	2
125	5

R22 (やや小)	
生徒数	学級数
42	2
43	2
44	2
129	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
10	1	20	1	11	1
19	1	10	1	20	1
25	1	19	1	10	1
21	1	25	1	19	1
25	1	21	1	25	1
25	1	25	1	21	1
125	6	120	6	106	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
12	1
12	1
15	1
13	1
18	1
15	1
85	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
11	1	13	1	9	1
23	1	11	1	13	1
14	1	23	1	11	1
22	1	14	1	23	1
21	1	22	1	14	1
24	1	21	1	22	1
115	6	104	6	92	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
10	1
11	1
15	1
14	1
8	1
11	1
69	6

R11 (小)		R12 (小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
17	1	26	1	13	1
28	1	17	1	27	1
31	1	29	1	17	1
28	1	32	1	30	1
40	2	29	1	33	1
25	1	41	2	30	1
169	7	174	7	150	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
16	1
10	1
17	1
16	1
10	1
13	1
82	6

2 アンケート結果

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】
 児童アンケート …【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

(1) 高森台中学校区

- ・ 小学校回答者数… 802 人（保護者 397 人、児童（3～6年生）311 人、地域の方 94 人）
- ・ 中学校回答者数… 363 人（保護者 133 人、生徒 230 人）

Q 小中学校ともに1学年に2学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

1学年に2学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約5割、地域の方で約7割、中学校の保護者で約5割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」と回答した方 … 賛成
 「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」と回答した方 … 反対

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
全体	【保護者】	51.6%	32.0%	16.4%
	【地域】	73.4%	13.8%	12.8%
高森台小	【保護者】	55.7%	31.1%	13.2%
	【地域】	68.9%	20.7%	10.4%
中央台小	【保護者】	56.2%	33.9%	9.9%
	【地域】	75.7%	13.5%	10.8%
東高森台小	【保護者】	40.4%	31.2%	28.4%
	【地域】	75.0%	7.1%	17.9%

② 中学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
高森台中	【保護者】	54.9%	36.1%	9.0%

(2) 石尾台中学校区

- ・ 小学校回答者数・・・ 918 人（保護者 417 人、児童（3～6 年生）374 人、地域の方 127 人）
- ・ 中学校回答者数・・・ 494 人（保護者 200 人、生徒 294 人）

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約 5 割、地域の方で約 6 割、中学校の保護者で 6 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」と回答した方・・・ 賛成
 「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」と回答した方・・・ 反対

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
全 体	【保護者】	54.7%	27.1%	18.2%
	【地域】	64.6%	11.0%	24.4%
玉川小	【保護者】	58.1%	26.4%	15.5%
	【地域】	56.8%	10.8%	32.4%
石尾台小	【保護者】	59.1%	26.3%	14.6%
	【地域】	66.0%	14.0%	20.0%
押沢台小	【保護者】	46.2%	28.8%	25.0%
	【地域】	70.0%	7.5%	22.5%

② 中学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
石尾台中	【保護者】	60.0%	27.5%	12.5%

3 意見交換会

(1) 高森台中学校区 第1回意見交換会

保護者や地域の方にアンケート結果を報告するとともに、高森台中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、各小中学校で意見交換を行いました。

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後のスケジュールやバスなどの通学について、児童生徒数の推計についての質問が多くありました。また、学童や学校跡地についてなど、様々な質問がありました。

学校名 (開催日)	高森台中学校 (10月22日)	高森台小学校 (10月14日)
参加者数	12人	19人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数推計について (2) ・スケジュールについて (1) ・統合に関することについて (1) ・学校施設の改修について (1) ・体育館の空調について (1) ・意見交換会について (1) ・学校跡地について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学バスについて (3) ・魅力ある学校づくりについて (3) ・統合に関することについて (2) ・過去の藤山台小の統合について (2) ・スケジュールについて (1) ・児童生徒数推計について (1) ・授業内容について (1) ・避難所について (1) ・学校行事について (1) ・いじめ等について (1) ・少人数学級について (1) ・学童について (1) ・体育館の空調について (1)

学校名 (開催日)	中央台小学校 (10月23日)	東高森台小学校 (9月25日)
参加者数	24人	21人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関することについて (7) ・通学について (3) ・スケジュールについて (3) ・学童について (2) ・学校施設の改修について (1) ・少人数学級について (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・学校跡地について (1) ・1学級の人数について (1) ・意見交換会について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・市の考え方について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関することについて (3) ・児童生徒数推計について (3) ・アンケートについて (3) ・小規模校のメリット・デメリットについて (2) ・意見交換会について (2) ・通学について (2) ・その他の市の施策について (1) ・学童について (1) ・市の考え方について (1) ・スケジュールについて (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・過小規模校のデメリットについて (1) ・過大規模校のデメリットについて (1) ・情報発信について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1)

(2) 高森台中学校区 第2回意見交換会

第1回意見交換会の意見などを踏まえ、「高森台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区を含めた学校統合に向けて検討を進める。」という市の考え方及び今後の進め方を示し、高森台中学校区全体で意見交換を行いました。

参加者からは、通学に関して心配する声やニュータウン活性化の取組をあわせて行うことについての意見が多くありました。また、話し合いの機会を増やして慎重に検討を進めてほしいなど、今後の進め方についての意見の他に、小規模校のメリットや1学級の人数についての質問に関連して、きめ細かな教育を望む意見もありました。

開催日	高森台中学校区（12月7日）
参加者数	31人
質問・意見 （ ）は件数	<ul style="list-style-type: none">・通学について (3)・ニュータウン地区のまちづくりについて (3)・今後の具体的な検討の進め方について (3)・教員の配置について (2)・学校跡地について (2)・子どもに対するケアについて (2)・統合に関する市の考え方について (2)・児童生徒数推計について (2)・小規模校のメリットについて (1)・1学級の人数について (1)・過去の藤山台小の統合について (1)・意見交換会について (1)・地域への影響について (1)・他自治体の事例について (1)・大規模校のデメリットについて (1)・情報発信について (1)・配布資料について (1)・少人数学級について (1)

(3) 高森台中学校区 第3回意見交換会

第2回意見交換会の意見などを踏まえ、高森台中学校区の学校統合に向けた本市の考え方及び今後の進め方を示し、高森台中学校区全体で意見交換を行いました。

ア 意見交換

会の前半では、「高森台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区の小中学校との学校統合に向けて検討を進める。隣接する中学校区として、石尾台中学校区を対象とする。」という市の考え方を示し、意見交換を行いました。

通学距離の基準の確認や通学方法の検討の必要性など、通学についての意見の他に、統合する場合の進め方の確認や統合による地域への影響を心配する意見もありました。

開催日	高森台中学校区（4月25日）
参加者数	7人
質問・意見 （ ）は件数	・通学について (3) ・統合に関する市の考え方について (3) ・部活動について (1)

イ 参加者どうしの意見交換

会の後半では、3人から4人で一つのグループになり、参加者どうしによる意見交換を行いました。意見交換は自由参加で行い、参加者数は7人（高森台小学校区3人、中央台小学校区2人、東高森台小学校区2人）でした。

○参加者どうしによる意見交換の主な意見

テーマ：統合に関する市の考え方について

【統合に関すること】

- ・統合して児童生徒数が増えることにより、授業や部活動などの子どもたちの活動の幅が広がる。
- ・統合を機会に、地域の方と協力して学校運営ができる仕組みをつくりたい。
- ・統合する場合は、10年、20年後の将来の状況を見据えた統合をお願いしたい。
- ・子どもたちが将来活躍できる大人になるように、多少費用はかかっても、最新の学校施設を準備し、特別なカリキュラムを取り入れてほしい。
- ・統合するにあたり、環境変化があると思うので、子どもたちの心のケアをする必要がある。

【通学に関すること】

- ・通学時の熱中症や通学時間が心配。
- ・バスを導入する場合、バス停をどこに置くのかなど、具体的なビジョンが見えないので不安を感じる。

【その他】

- ・統合することによって削減できるお金を教育のことに充ててほしい。
- ・保護者だけでなく地域の人でも子どものことを考える意識が必要。
- ・災害対策について心配であるので、避難所として活用できる体育館などは残してほしい。

(4) 石尾台中学校区 第1回意見交換会

保護者や地域の方にアンケート結果を報告するとともに、石尾台中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、各小中学校で意見交換を行いました。

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後のスケジュールやバスなどの通学について、魅力ある学校づくりについての質問が多くありました。また、学校跡地や情報発信についてなど、様々な質問がありました。

学校名 (開催日)	石尾台中学校 (10月17日)	玉川小学校 (10月9日)
参加者数	14人	22人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関することについて (4) ・児童生徒数推計について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・現状の学校の体制について (1) ・地域の活動について (1) ・意見交換会について (1) ・情報発信について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学バスについて (3) ・統合に関することについて (3) ・アンケートについて (2) ・通学区域の変更について (1) ・避難所について (1) ・いじめ等の対応について (1) ・少人数学級について (1) ・授業内容について (1) ・スケジュールについて (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・学校施設について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1)

学校名 (開催日)	石尾台小学校 (10月6日)	押沢台小学校 (10月7日)
参加者数	22人	30人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関することについて (4) ・通学について (3) ・過去の藤山台小の統合について (2) ・今後の具体的な検討の進め方について (2) ・アンケートについて (1) ・単学級のデメリットについて (1) ・1学級の人数について (1) ・スケジュールについて (1) ・情報発信について (1) ・意見交換会について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校づくりについて (5) ・統合に関することについて (4) ・スケジュールについて (3) ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・児童生徒数推計について (2) ・過去の藤山台小の統合について (2) ・学校跡地について (2) ・通学バスについて (2) ・学校選択制について (1) ・1学級の人数について (1) ・市の考え方について (1) ・その他の市の施策について (1) ・学童について (1)

(5) 石尾台中学校区 第2回意見交換会

第1回意見交換会の意見などを踏まえ、「石尾台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区を含めた学校統合に向けて検討を進める。」という市の考え方及び今後の進め方を示し、石尾台中学校区全体で意見交換を行いました。

参加者からは、取組の目的についてや統合に関する市の考え方、魅力ある学校づくりなどの質問がありました。また、ニュータウン地区の現状や地域の実情の把握についてなど地域の視点にたった質問や、アンケートに関する質問も多くありました。

開催日	石尾台中学校区（12月20日）
参加者数	41人
質問・意見 （ ）は件数	<ul style="list-style-type: none">・アンケートについて（3）・ニュータウン地区の現状について（2）・通学区域の変更について（2）・取組の目的について（2）・統合に関する市の考え方について（2）・市の財政への影響について（1）・地域の実情をしっかりと把握することについて（1）・魅力ある学校づくりについて（1）・児童生徒数推計について（1）・検討の順序について（1）・意見交換会について（1）・他自治体の事例について（1）・スケジュールについて（1）

(6) 石尾台中学校区 第3回意見交換会

第2回意見交換会において、「保護者の声をもっと聴いてほしい。」という意見をいただいたことから、保護者の皆様を対象に第3回意見交換会を開催しました。

参加者からは、取組の進捗状況や市から具体的な案を提示することなど、今後の具体的な検討の進め方についての質問が多くありました。また、アンケートや意見交換会については、保護者や子どもたちの意見を多く聞いてほしいという意見がありました。

開催日	石尾台中学校区（2月11日）
参加者数	12人
質問・意見 （ ）は件数	<ul style="list-style-type: none">・今後の具体的な検討の進め方について（4）・アンケートについて（3）・意見交換会について（3）・統合に関する市の考え方について（1）・魅力ある学校づくりについて（1）・小中一貫校について（1）・学校の教室数について（1）・他自治体の事例について（1）・石尾台中学校区の進捗状況について（1）

(7) 石尾台中学校区 第4回意見交換会

第2回及び第3回意見交換会の意見などを踏まえ、石尾台中学校区の学校統合に向けた本市の考え方及び今後の進め方を示し、石尾台中学校区全体で意見交換を行いました。

ア 意見交換

会の前半では、「石尾台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区の小中学校との学校統合に向けて検討を進める。隣接する中学校区として、高森台中学校区を対象とする。」という市の考え方を示し、意見交換を行いました。

統合を考えるにあたっての優先順序や今後の検討の進め方についての意見がありました。また、ニュータウン地区のまちづくりへの影響を心配する意見や、玉川小学校区の特性も考えて検討してほしいという意見もありました。

開催日	石尾台中学校区（4月25日）
参加者数	19人
質問・意見 （ ）は件数	<ul style="list-style-type: none">・統合に関する市の考え方について (1)・ニュータウン地区のまちづくりについて (1)・児童生徒数推計について (1)・通学について (1)・今後の具体的な検討の進め方について (1)・民生委員の活動について (1)・玉川小学校区への対応について (1)

イ 参加者どうしの意見交換

会の後半では、4人から5人で一つのグループになり、参加者どうしによる意見交換を行いました。意見交換は自由参加で行い、参加者数は17人（玉川小学校区5人、石尾台小学校区6人、押沢台小学校区5人、その他の小学校区1人）でした。

○参加者どうしによる意見交換の主な意見

テーマ：統合に関する市の考え方について

【統合に関すること】

- ・自分の子どもが学級数の少ない小学校を卒業し、中学校、高校では学級数が大きな学校で多くの人と関わることになったため、ストレスを感じていた。小学校から様々な人と関わることは大事だと思う。
- ・仮に統合する場合、今と同じような学校ではなく、教育や施設など特色のある学校をつくってほしい。
- ・急いで統合を進める必要はないと思う。多くの子どもたちと学校生活を送ることが必要と考えているなら、学校の行事や部活動などを他の学校と合同で行えばよい。

【通学に関すること】

- ・統合して通学区域が広がると、中学生は問題ないと思うが、小学生は体力面などから不安がある。
- ・通学バスを利用するのであれば、路線バスを利用するのではなく、貸し切りバスを用意するなど、市が責任をもって準備してほしい。
- ・学校は自宅から歩いて通える位置にないといけないと思う。バスで通学するにしても、子どもにとっては負担になると思う。

【まちづくりに関すること】

- ・小学校で行っている地域のお祭りやイベントなどがどうなるのか分からなくて不安である。
- ・学校が近く、静かな環境であるという理由でこの地区に引っ越しをしてきた人が多くいる。統合により学校がなくなると、地域が廃れると思う。

【その他】

- ・先生が1学年に1人だと、先生の負担が大きいと思う。複数の先生がいる環境が必要であると思う。
- ・統合によって学校数が少なくなり、学校のリニューアル工事にかかる費用や維持管理費を削減できるなら、そのお金を教育に関することに使ってほしい。
- ・学校統合が単純な児童生徒数の数合わせになってはいけない。統合によって学校規模は大きくなり、その学校に関係する地域の規模も大きくなるので、地域も一体となって考えていかないといけない。

※ 各意見交換会の会議録は、資料表紙のQRコードからご確認いただけます。

4 春日井市東部地域学校区図

